



愛隣幼稚園.....

園だより

.....19.6月

子どもが自由に主体的であること

夏を思わせる陽射しの中、急に気温も上がりました。「みずあそびしてきたから～」そう言って嬉しそうに着替えにやってくる子どもたち。子どもたちのあそび・興味の向く先は自然の変化にも大きく影響されていることが、こんな姿に見て取れます。当たり前？いえいえそうでもないかもしれません。子どもが“自然”と接点を持って生活していること、その中で感じたこと見たことなどに対して自由に行動・表現することが保障されていること。それがないと「みずあそびしてきたから～」にはなりません。愛隣が大人主体の幼稚園でないことの意義はここにあります。しかし、ご家庭の中ではこれは難しい。暑い⇒水遊びしたい⇒実行！この自由を保障するなんてことは無理なことですし、＜家ではそういうことにはならない＞という経験も子どもには大切なことです。なので幼稚園では、子どもが自由に主体的に活動できることを大切にしたいと考えています。『こんなことをやってみたい！』という子どもの中からムクムク溢れてくるものを大事にしないと、やがて、やってみたい！と思わないようになってしまいます。好奇心や探求心の芽が摘まれ、意欲がしぼんでいくのは残念ですから。(いつも付け加えていますが、それは自分勝手に何をしてもいいことではありませんし、子どもたちはルールが必要であることもそれは守らなければならないことも、自ら学んでいきます。)

今月、【つぼみだより】の園長コラムに“歩く”ことについて書きました。5月はどのクラスも遠足に出かけ、少し長い距離を歩きました。たんぽぽ組はお天気に恵まれ過ぎて少し暑かったのですが、途中、やや抱っこモードになりつつも全員が穴川中央公園まで歩きました。(驚いたのですが、今年、轟町小学校の遠足も目的地は穴川中央公園でした。例年は千葉市動物公園です。3歳児でも歩く距離ですですから、何かの事情があったのだと思いますが、小学生にとっては散歩の距離だったのではと。)“歩く”ということは人の人生のスタートに獲得し、その終わりの時に失っていくものです。そう書いてみるとその意味の大きさに気がきます。人は歩き始めた時に、自分で自分がしたいと思うことを自分でできるようになる自立に向い、それを失っていく時には自分のことが自分では意のままにならなくなっていく。健康な時、私たちはそんなことを全く意識していませんが“歩く”ということは人の体と心の成長、発達にとっても大きな関わりがあるのです。振り返ってみましょう。これまでいっぱい子どもと歩いてきましたか？あなたのお子さんは、歩くことに自信がありますか？すぐに「つかれた～」と言ったりしませんか？歩くことがつまらない様子はありますか？幼稚園はそんなに遠いところではないのに、自転車に乗せてしまっていないですか？“歩く”ことで子どもの運動機能が発達します。体が丈夫になります。自然との距離が近くなり、たくさん発見をします。興味や関心が湧きます。体そのものに力が充実していると、興味や関心を探求しようとする思いが支えられ、やってみたい！と思います。実際に様々な事象に自ら関わっていきます。経験が重なり新しい知識や技術を獲得します。それは子どもにとって「喜び」です。大人は通り過ぎ、当たり前になっているので気付かませんが、その「喜び」(心の成長)が子どもを次の探求へと向かわせる原動力になっていきます。“歩く”ことで子どもは自ら、多くのものを獲得していくのです。与えられたものでない、自分で得た力だからこそ、子どもは嬉しいのです。たかが“歩く”されど“歩く”、小さな当たり前の中にも、子どもが自由に主体的になる要素はいっぱいあります。これは先に書いた水遊びとは違って、わざわざ幼稚園でなくても、明日から一緒にできる小さくて大きな経験です。今からでも遅くはありません。子どもと一緒に楽しんで歩きましょう！テレビでこんなことが話題になっていました。日本の大学生の学力の低下が著しく、授業が成り立たない。そもそも、学生に学ぶ意欲がない。困ったことです。今さら好奇心や探求心なんてどうするのでしょうか。自由で主体的であること、やってみたい！が大事にされること、そんな幼児期がなければ学ぶ意欲は難しい、そう思いながらテレビを眺めていました。